

千葉県における環境大気中のダイオキシン類濃度について—2005年度の結果—

仁平雅子^{*} 吉澤 正 半野勝正 清水 明 宇野健一

^{*}千葉県環境生活部大気保全課

1. はじめに

千葉県では、ダイオキシン類対策特別措置法の規定に基づき、毎年度環境大気中のダイオキシン類の濃度を把握するための調査を行っている。ここでは2005年度の調査結果について報告する。

なお、本調査は千葉県環境生活部大気保全課の事業の一環として行うものである。

2. 調査地点・調査時期

調査地点（12地点）を表1に示す。調査時期は、夏季（2005年7月13日～20日）及び冬季（2006年1月18日～25日）の2季2回とした。

試料採取はすべての地点について委託機関（社団法人埼玉県環境検査研究協会）が行い、分析は県北6地点（表1のNo.1～6）を委託機関、県南6地点（No.7～12）を環境研究センターが担当した。

3. 結果

3-1 季節別・年平均値の結果

ダイオキシン類濃度の調査結果を表1に示す。これまでの調査結果では、冬季に高い濃度が見られる傾向があったが、2005年度の調査結果では、一部の地点を除き、夏季と冬季の調査結果に大きな差は見られなかった。年平均値は0.014～0.097 pg-TEQ/m³であり、すべての地点で環境基準値（0.6 pg-TEQ/m³）を下回る結果であった。

表1 2005年度大気環境調査結果（単位：pg-TEQ/m³）

No.	地点名	夏季	冬季	年平均
1	野田市野田	0.052	0.051	0.052
2	印西市高花	0.055	0.046	0.051
3	成田市加良部	0.042	0.041	0.042
4	佐原市大倉	0.055	0.047	0.051
5	銚子市唐子	0.024	0.17	0.097
6	四街道市鹿渡	0.053	0.050	0.052
7	横芝町横芝	0.048	0.061	0.055
8	茂原市高師	0.035	0.026	0.031
9	勝浦市小羽戸	0.018	0.013	0.016
10	館山市亀ヶ原	0.048	0.022	0.035
11	君津市久保	0.049	0.045	0.047
12	鴨川市清澄	0.012	0.015	0.014

3-2 年平均値の経年変化

調査を開始した1999年度から2005年度までの年平均値を表2に示す。年平均値の経年変化を見ると、全体として減少傾向にあり、近年は環境基準値を大幅に下回る低い濃度で推移している。これは法規制等に伴う大気への排出削減効果によるものと考えられる。

表2 1999～2005年度における年平均値（単位：pg-TEQ/m³）

年度 地点	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
1	0.46	0.27	0.078	0.13	0.10	0.12	0.052
2	0.46	0.17	0.13	0.12	0.088	0.10	0.051
3	0.21	0.28	0.065	0.11	0.068	0.094	0.042
4	0.24	0.084	0.032	0.065	0.069	0.052	0.051
5	0.70	0.071	0.034	0.060	0.077	0.061	0.097
6	0.56	0.12	0.077	0.12	0.074	0.086	0.052
7	0.32	0.15	0.091	0.25	0.50	0.088	0.055
8	0.19	0.16	0.076	0.097	0.047	0.049	0.031
9	0.17	0.082	0.038	0.28	0.024	0.024	0.016
10	0.18	0.074	0.048	0.046	0.039	0.029	0.035
11	0.35	0.15	0.11	0.14	0.056	0.065	0.047
12	0.097	0.063	0.043	0.038	0.016	0.031	0.014
平均	0.33	0.14	0.069	0.12	0.10	0.067	0.045

4. まとめ

2005年度に県内12地点で環境大気中のダイオキシン類濃度の調査を行った結果、年平均値はすべての地点で環境基準値を大きく下回った。

年平均値の経年変化は全体的に減少傾向にあり、法規制等による大気への排出削減効果が現れているものと考えられる。